

海女集落の景観調査に関する報告会の開催結果について

鳥羽市では、平成30年度（2018年度）から「鳥羽市景観計画」の策定と併行して、三重大学が開設した海女研究センターを中心に海女集落（石鏡、国崎、相差、答志、和具、菅島、神島）の調査・研究を続けてきました。この調査・研究は、近年の景観行政の充実と、海女文化への関心の高まりという2つの流れを受け、海女集落の景観特性や景観構造を明らかにしようとするものです。現在、「鳥羽市景観計画」において海女集落は景観上の重点地区（候補）に抽出されていますが、今後重点地区として指定の検討を行うためには、報告会等において調査・研究の結果と各集落の魅力を伝え、住民の意見を大切にしながら、理解と賛同を得ることが必要不可欠です。そこで、令和5年度から令和6年度にかけて、以下7つの海女集落において報告会を開催しました。報告会の概要と主な意見は次のとおりです。

【報告事項】

海女集落の景観特性と景観構造（景観計画を活用した景観まちづくりをめざして）

- ・ 景観調査の結果報告（各集落の景観の特徴と魅力について）
- ・ 鳥羽市景観計画における海女集落の現在の位置付け
- ・ 重要文化的景観の先進事例の紹介

上記を説明後、意見交換を行いました。

【開催日・参加者】

- (1) 相差（令和6年2月16日(金)、相差女性活動センター） 10人
- (2) 国崎（令和6年2月17日(土)、国崎公民館） 11人
- (3) 石鏡（令和6年2月17日(土)、石鏡公民館） 16人
- (4) 菅島（令和6年3月16日(土)、菅島町内会事務所） 9人
- (5) 神島（令和6年6月22日(土)、神島開発総合センター） 12人
- (6) 答志・和具（令和6年6月22日(土)、答志コミュニティアリーナ） 13人

【景観に関する主な意見】

- ・ 既にRC造の建物が多く存在している。景観を考える上でどのように考えていけばいいのか。
- ・ 景観のルールを決めていく上で、エリアは限定できるのか。
- ・ 文化的景観に指定されると、建物などの修理の補助をしてもらえるのか。神社の社殿、寺院や民家の石垣部分は補助の対象になるのか。

- ・文化的景観に指定された際にどのようなメリット（景観の重要な構成要素になると、何割負担で工事ができるなど）があるのかをまとめておいてほしい。
- ・どのように防災への対応を行っていくのが課題だと思うのでぜひ検討してほしい。
- ・（メディア戦略について）景観についてもうまく企画してもらいたい。
- ・（遊歩道の整備などについて）高齢化で作業が減ってきていて、ボランティアなどをお願いできないか。
- ・海女さんの漁場で釣人がいて困っている。看板の設置なのか、何か対策をしていきたい。
- ・昔と考え方が変わってきていて、若い人は自由に家を建てたいという人もいる。どのように考えるとよいか。古いものに戻す方向でよいか。
- ・資源を守ったり、育てたりする仕組みが重要だと思うが、資源の問題にどのように取り組めばいいか。
- ・漁業振興や施設の整備に補助が受けられる等のメリットがないとなかなか難しいのではないか。
- ・海女や漁業者が少なくなっていく担い手不足の中で、そちらの対策の方が重要ではないか。

【まとめ】

- ・重点地区指定や文化的景観選定については、指定エリア、指定された際のメリット、補助事業の対象になる建物や工作物の種類、補助の割合、規制内容等への質問があり、今後具体的な提案を期待する声が聞かれた。
- ・その他に、漁の資源、担い手、防災、安全に関する課題解決に期待する声が聞かれた。